

第10回 東近江市市民協働推進委員会 要点まとめ

開催日時 平成25年6月20日(火) 19:30~21:30

◆開催場所 東近江市役所 本庁 3A会議室

◆会議内容

前回の会議に引き続き、協働推進計画(素案)を検討し、一定のとりまとめに向けて検討を行った。特に計画の施策部分の検討、「協働の原則(基本姿勢)」についての合意形成、計画の理念となるキャッチフレーズを中心に議論を行った。次回の会議からは条例についての勉強会や検討を進めていく。

(1) 協働施策の展開について

●協働ラウンドテーブルについて

- ・施策であげている「協働ラウンドテーブル」は、施策、予算等へも反映させていくというところに踏み込んでいるため、少し工夫した記載が必要。
- ・市民さんからの提案をいただき、このラウンドテーブルを開催するということで、そこに出席を頂いて議論をその場でしていただけるような場を設定するというのがまちづくり協働課の重要な役割。

●推進体制について

- ・「協働成熟度調査」というのがあるが、どのような内容か。
⇒この計画の進捗状況について、事例を持ち寄りながら確認できるような会ができればと思う。
協働自体が手段であるため、具体的にどんな課題解決につながったのか焦点を当てていく。
- ・協働の事例について調書を書いてもらうことを他の自治体でされていたが、調査するのに精一杯で意味の無いことがほとんどである。その延長線で「表彰」という案が出てきた。自然に事例が東近江の中で積み上がっていき、東近江で頑張っている人たちを、みんなで褒めて伸ばそうという狙い。
- ・市民側から見ると、行政の中の組織がなかなか見えにくいという問題がある。
⇒行政からの提案も、市民の皆さんからの提案も、まちづくり協働課が窓口となって受けていくことをイメージしている。
- ・個人個人の職員の意識を少しずつ変えていくことで、職員の中で協働が当たり前になっていくような組織になっていければいいと思う。
- ・本部を置くのではなく、普段の業務の中で自然に協働ができるシステムが望ましいと思う。果たしてそうなっているのだろうかというのが疑問。
⇒多分、東近江だけではなく、ほとんどの自治体のところは現状なっていない。そういうものをこういう計画や推進を含めて、行政を変えていくということで実質的な行革の大きな柱に

なるかと思う。「表彰」なども、汗をかいた行政職員の人たちもどンドン表彰してあげたい
と思っている。そういう取組みなどをみんなが共有していくことを積み上げるしかない部
分もたくさんあると思う。

●計画の推進について

- ・計画の優先順位やスケジュールがあればよい。この会議の中での優先順位といったものもある程度出せればよいのではないか。
⇒少し検討していきたい。条例の検討と並行して、進めていく。

●まちづくり協議会について

- ・まちづくり協議会とコミュニティセンターをどのようにつなぐのか、その見通しが必要。何かモデル的なものがあると、一つの方向性が出てくるのではないかと思う。
⇒「地域自治」の中の「地域自治の再構築」で、これまで行政が考えてきた地域にこうあってほしいまちづくり協議会というものを、再構築という形で記載している。多分、答えはそれぞれの地区の方々に考えてもらうことだと思う。行政が求められるとしたら、何かスタンダードのようなものを示してほしいということではないかと思う。
⇒この位置付けとしては、その地域自治の再構築の中で、まちづくり協議会というのは非常に重要な役割を果たすということ。また、「地域包括交付金」みたいな制度ができてくると、ありようとか立ち位置もはっきりしてくると思う。
- ・「地域包括交付金制度」は、他の地域で導入されているのか。どのように地域ごとに分配される予定なのか。人数割りにすると、人数の少ないところは不利になるが、どうするのか。
⇒幾つか先行して取り組んでいる自治体があるので、分配方法などを学びながら進めていく。
- ・「地域自治」の中で、自治会連合会とまちづくり協議会の連絡協議会の統合を検討するとなっている。基本的な考え方として、地域コミュニティというのは、これから自治連合会とまちづくり協議会の統合された組織が、いろいろなまちづくりのための協働の中心となるように進められることが、最終的には望ましいのか。
⇒まちづくり協議会連絡会と自治会連合会は本来並列ではないが、現在は並列になっているので、それを改めようという話。地区の住民自治を担う組織を一本化していくというのが最終的な目標。

(2) 協働の理念について

- ①地域に対する想いを持つ姿勢 ～そこに地域愛はありますか？～
- ②自ら行動する姿勢 ～自分にできることを考えていますか？～
- ③お互いに理解し合う姿勢 ～お互いの強みも弱みも理解していますか？～
- ④共有する姿勢 ～目的や目標などの方向性は同じですか？～
- ⑤つながり合う姿勢 ～つながり合って、新たな発想で考えていますか？～

- ・協働の原則について、これまでの変遷を追っていったところ、「基本的姿勢」のほうがじっくりくるため、置き換えさせていただいた。これまでの議論をふまえ、5つの姿勢にまとめた。
- ・③番は、お互いに理解し合うということになっているが、日本語として、「強みを生かしながら助け合うこと」と「みんなの弱みを助け合おうとする」について、助け合うということについては、弱いところを助けるという表現が良いのか、強い人が助けてあげようとする力なのか、どちらの表現が良いか。
⇒ポジティブに捉えたほうがいいのではないのか。弱い部分をそういう強みを生かしてカバーしていく考えのほうがよい。

(3) キャッチフレーズについて

●キャッチコピーとして大事にしたいこと

- ・「三方よし」と「お互いさま」は外せないと思う。
- ・若い人たちにもストンと落ちるように、重くないさらっとした軽いキャッチコピーがよい。
- ・キャッチフレーズに「東近江」を入れたらどうか。
- ・「お互いさま」と言ったときには、「おかげさま」という感謝の気持ちを入れたいと思う。
- ・「お互い様」と入れば、半分は、その裏には「おかげさま」という感謝の気持ちが入っている。
- ・「まちづくり」にこだわらないといけないということがなければ、簡単に「未来都市」とかは駄目か。
- ・「地域を誇りに思い、未来につなげるまちづくり」。ここに方針があるわけで、基本姿勢をもう一度見ることができる。
- ・「共に考え、共に行動、共に評価」と「お互い様」のセットの部分が、協働という理念のキャッチフレーズには、こちらのほうがよいと思う。
- ・「お互い様」と「おかげ様」、どっちがいいかという話であるが、「お互い様」は「お互い様だ」みたいに、少し悪い意味に使うことがあり、消極的だと思う。
- ・実際、「おかげ様」というと、上の者に感謝するみたいなことしかない。
- ・市民と行政がお互いに、という意味で「お互い様」と、それぞれの強みを、行政は行政の、市民は市民の強みをもってまちづくりを進めるという意味合いがある。
- ・「お互い様」という言葉は、若い人にはどうだろうかという感じは受ける。
- ・ストレートに「協働のまちづくり」としたほうがいいのではないか。
- ・キャッチフレーズなのでいろいろな世代の人たちにとってイメージが湧くものであってほしい。

●キャッチフレーズの候補（5点）

- ①「地域を誇りに思い、つなげる未来」
- ②「「お互い様」の心で広がる「三方よし」のまちづくり」
- ③「協働で、未来につなげるまちづくり」
- ④「「共に考え、共に創る」 お互い様のまちづくり」
- ⑤「つながって、未来を創るまちづくり」

- ・挙手にて、上位3つを選ぶ。③④①が選ばれる。
- ・理念の文章には「条例より」ということで、条例の前文なり理念の部分がここに書かれるかと思うので、それを受けてから決めたほうがいいのではないか。
- ・条例の議論を踏まえて決めていきたいので、上位3つを常に見渡しながら進めていきたい。
- ・今日のところは、上位3つ、③、④、①という部分を残させていただく。